

随筆

「日本百名山」の  
深田久弥と東北(その1)

仙台中支部 深田 一 弥



ている。各山を見てみる。

深田久弥の「日本百名山」は、中高年登山者のバイブルになっていると聞く。当会にも登山が趣味の会員は結構居るようだし、私の友人、知人にも山好きは多く、中には70歳になって百名山を全て制覇したとわざわざ私に連絡してくる者も居る。名前が似ているので、私も山登りが好きだと勝手に決めつけているようだ。

岩木山 岩木山を見ながら育った太宰治(元衆議議員津島雄二先生の岳父)の文の引用が長い。早世した後輩の文才に敬意を表してのことと思われる。弘前から眺めたこの山は津軽富士と呼ばれるだけあってまことにみごとであると評している。

八甲田山 この山は、ゆっくりと自分の足で逍遙するに適し、広大な高原性とそれを覆うアオモリトドマツの群生が個性的とされている。昭和30年代学生だった私は夏、山好きの友人に連れられ萱野茶屋を出発し遭難の碑まで登り、田代平を経て土砂降り雨の中ようやく谷地温泉まで辿りついたことがある。

八幡平 昔、坂上田村麻呂があまりの美しさに八幡大神宮を祀ったとの伝説が名の由来らしい。平とは山上の湿地帯つまり

岩木山 岩木山を見ながら育った太宰治(元衆議議員津島雄二先生の岳父)の文の引用が長い。早世した後輩の文才に敬意を表してのことと思われる。弘前から眺めたこの山は津軽富士と呼ばれるだけあってまことにみごとであると評している。

早池峰 著者は早池峰の名に憧れていたが、初めて見たのは姫神山の頂上からだそう。ここでは早池峰と遠野物語との関わりを紹介している。

この山の特産ハヤチネウスキ、キソウは大ぶりで欧州アルプスのエーデルワイスに近いという。

鳥海山 名山と呼ばれるにはいろいろの見地があるが、山容秀麗という資格では、鳥海山は地に落ちないと言う。

東北の山の多くは重厚、時には鈍重の感じさえ受けるがこの山は颯爽としてスマートと評している。ここでは先輩の齋藤茂吉の歌を披露している。

蔵王山 群雄並立していて他を圧してそびえる盟峰がなく、蔵王は一連の山脈を指して言い、長大な尾根は、東北人特有の牛のような鈍重さでドッシリと根を張っていると評し、最高峰は熊野岳だが刈田岳の方が代表としてい

安達太良山 この山名を不朽にしたのは高村光太郎と妻の恵子である。二本松生まれの彼女は東京に居ると病気になる、故郷に帰ると健康を回復した。絶唱「樹下の二人」から「あれが阿多羅山、あの光るのが阿武隈川」を引用し著者もその場に行き安達太良を眺めたと言

は不便なせいか原始的な面影を残していると言。私は学生の頃、一人で10月中旬に刈田岳から不登山まで南半分を縦走したが、紅葉の美しさに感動した。

岩木山 岩木山を見ながら育った太宰治(元衆議議員津島雄二先生の岳父)の文の引用が長い。早世した後輩の文才に敬意を表してのことと思われる。弘前から眺めたこの山は津軽富士と呼ばれるだけあってまことにみごとであると評している。

八甲田山 この山は、ゆっくりと自分の足で逍遙するに適し、広大な高原性とそれを覆うアオモリトドマツの群生が個性的とされている。昭和30年代学生だった私は夏、山好きの友人に連れられ萱野茶屋を出発し遭難の碑まで登り、田代平を経て土砂降り雨の中ようやく谷地温泉まで辿りついたことがある。

八幡平 昔、坂上田村麻呂があまりの美しさに八幡大神宮を祀ったとの伝説が名の由来らしい。平とは山上の湿地帯つまり

鳥海山 名山と呼ばれるにはいろいろの見地があるが、山容秀麗という資格では、鳥海山は地に落ちないと言う。

東北の山の多くは重厚、時には鈍重の感じさえ受けるがこの山は颯爽としてスマートと評している。ここでは先輩の齋藤茂吉の歌を披露している。

朝日岳 山形県は、三方を鳥海、舟形、蔵王、吾妻、飯豊、朝日等の山で囲まれているが、その中で朝日が一番原始的なおもかげを残していると言。著者は大正13年に朝日連邦を縦走し、かなり初期に属すると自負していたが、古文書で鶴岡藩から米沢藩に抜ける軍事上の間道があったと知り驚いている。ここでは山形の生んだ歌人結城哀草果氏の歌を紹介し自身も大いに共感している。

飯豊山 山と言うより連峰と呼ぶ方が適当な3県にまたがる巨大な山塊。著者はその個人的な山名に古くから心を惹かれていた。夏の1週間全主稜を歩き、大きな残雪と広々としたお花畑、散在する小さな池に魅了された。家族4人の楽しい山行だったらしい。

吾妻山 「一口に吾妻山と呼んでも、これほど茫漠としてつかみどころのない山もあるまい」とあるように1900m以上の峰が10座近く群がっている。著者は山スキーでのこの山の魅力を述べている。